

# 昆布と向き合い、それぞれの疑問について考えた子どもたち

—昆布ロードを通して—

千葉県千葉市立蘇我小学校 三橋 昌平

## 1. 実施学年及び教科・領域

小学校第6学年 総合的な学習の時間

## 2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

### (1) 単元名 昆布ロード

### (2) ねらい

#### ①学習指導要領との関連

本学習内容は指導要領の指導計画の作成にあたっての配慮事項(2)「地域や学校、児童の実態等に応じて教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な学習、児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこと。」また内容の取扱いについての配慮事項(6)にある「学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会境域施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。」に関連させて学習を進め、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を育成していくことをねらう。

#### ②単元の目標

- ・よりよく課題解決していくために、昆布ロードに関して、地理条件や風土、文化、歴史について理解を深めるとともに、探求することの良さを理解している。(知識・理解)
- ・昆布の取れない沖縄で昆布の消費量が多いのはなぜか、という最初の問いに対して、必要な情報を集め、まとめている。(技能・表現)
- ・史資料から昆布ロードに関する問いを見出し、課題を立て、必要な情報から、整理して考えている。(思考・判断)
- ・史資料から昆布ロードに関する問いを見出し、主体的・協働的に課題の解決に取り組み、主体的にさらに課題に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)

### (3) 博物館との関連

#### ①活用方法 来館型活用

#### ②活用資料 第3展示室

- ・国際社会の中の近世日本（江戸時代後半の貿易品）
- ・境界を超えた昆布と薬種
- ・琉球貿易図屏風
- ・北前船復元模型
- ・船の一年・港の一年 —江戸から明治期の沿岸航路

#### (4) 指導観

沖縄では昆布料理が多い。以前の実践でこのように書いたことがあったが、最近そのような話を聞く機会が減っている。以前は昆布の消費量が全国で1位だったものが、現在では低迷している。新聞記事で「昆布ロード」の特集があったが、そこにもそのような内容のものが載っていた（朝日新聞 2017年12月6日夕刊4面）。食生活の変化なのか、他にも原因はあるのか。今回の実践では昆布ロードについて学習を進めていきながら、現在の沖縄について考えるきっかけになればと考えた。

「昆布ロード」とは何か。昆布の歴史を見ると、昆布がとれるのが北海道（蝦夷地）だったため、全国各地に流通するようになったのは、海上交通がさかんになった江戸時代になってからである。北前船を使い、直接商業の中心地である大坂まで、各寄港地のさまざまな生産物や作物とともに運ばれた。下関から瀬戸内海を通る西廻り航路が使われることが多かった。昆布はそこからは主に密貿易（抜け荷）によって薩摩から沖縄（琉球）を通じて中国（清）にまでもたらされた。この北海道から中国まで昆布が運ばれた経路を「昆布ロード」と呼ぶ。昆布ロードについて調べていくと、「北前船」「売薬商人」「薩摩藩」といったキーワードがあがってくる。これらを学んでいく中で、子どもたちの疑問を中心に学習を進めていきながら、最初にあげたような現在の沖縄について関心もてるようにしていきたいと考えた。

今回の実践で、子どもたちに大きな特徴がある。子どもたちの多くが中国に関係するということである。クラス35名中、18名が中国に関係する子どもであった。昆布ロードについて中国との関連を考える上でも、この実態は大きく影響を与えると考えた。以前の実践との違いについても明らかにしていくことで、昆布ロードのもつ教材としての価値を考えていきたい。

### 3. 指導計画（25時間扱い）

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	1	○資料から学習問題を立てる。	□昆布の消費量のグラフをもとに、学習問題がたてられるように学習を進める。 ■感想に昆布について知りたいことや、疑問をまとめられたか。 ＜ワークシート・関＞
展開1	5	○資料を読み取り、昆布ロードに関する概略をつかむ。 ○資料からわかったことや疑問点について感想に書く。 ○もっと知りたいことについて感想に書く。	□北前船、富山の売薬商人、薩摩藩の政策、琉球王国、当時の中国の状況といった内容に関心もてるよう資料を用意し、資料と一緒に読み進め、話し合いを進める。 ■昆布ロードに関する理解を深められたか。＜ワークシート、知＞

	3	<p>○国立歴史民俗博物館を見学する（第3室）。</p> <p>○昆布ロードに関する展示物と、これまでの学習とを関連させて見学し、考えを書く。</p>	<p>□博物館見学では、昆布ロードに関する展示物を探し、わかったことや疑問に思うことをメモに取るようにさせる。</p> <p>■昆布ロードに関する必要な情報を集めていたか。〈行動観察、技〉</p> <p>■史資料から昆布ロードに関して考えたことを書いていたか。</p> <p>〈ワークシート、思〉</p>
展開2	3 2 2	<p>○博物館見学後の疑問について話し合いをし、自分の関心のあることについて考えをまとめる。</p> <p>○新聞記事を読んで、手紙を書く。</p> <p>○手紙の回答について共有し、自分の考えを書く。</p>	<p>□ワークシートから中心となる疑問についてクラスで取り上げ、話し合いをすることで、興味や関心を広げる。</p> <p>■手紙に自分がこれまで理解したことと、疑問に思うことを整理して書いていたか。〈手紙、思〉</p> <p>□手紙の回答をクラス全体で読み進め、ワークシートにわかったことや考えたことについて書くようにアドバイスをする。</p>
展開3	2 3	<p>○かるたづくりをする。</p> <p>○グループですごろくづくりをする。</p>	<p>■昆布ロードに関して、学習してきたことを生かし、かるたづくりをできたか。〈かるた、思〉</p> <p>□スタートは富山とし、ゴールは自分たちの考えから設定するようアドバイスをする。</p> <p>□これまでの学習と関連させてすごろくを作成するように声かけをする。</p> <p>■関心のあることをすごろくにまとめていたか。〈すごろく、関〉</p>
まとめ	1 3	<p>○まとめの感想を書く。</p> <p>○かるたやすごろくで遊ぶ。</p>	<p>■感想に昆布ロードに関する自分の考えを書けたか。</p> <p>〈ワークシート、思〉</p> <p>■これまで学習してきたことを想起しながら、かるたやすごろくに取組みめたか。〈行動観察、関〉</p>

#### 4. 実践の概要（本実践は平成 29 年度 千葉市立高浜第一小学校での実践）

##### （1）学習問題をつくる（9月）

一家庭あたりの昆布の消費量のグラフを使って学習問題をつくった。昆布の消費量が多い都市を取り上げ、それらの都市がどこにあるのか地図で確認しながら、疑問をあげていき、以下のような学習問題ができた。

昆布の取れない沖縄で、なぜ消費量が多いのだろう。

子どもたちの予想は、「沖縄は中国と近いから中国から輸入しているのではないか」「昆布を持ち込んだ人がいてそれが広まった」「昆布がほかの料理と合うから」などの考えがあげられた。彼らは4年生の時に、総合的な学習で、沖縄について1年間学習をした経験があり、その時の学習を想起しながら考える姿が見られた。やはり中国との関連を考える子どもが多く、実態が反映していることがわかる。

##### （2）資料から概略をつかむ（9月）

次に、昆布ロードに関する資料をクラスで読み進めた。少しずつ概略をつかむとともに、子どもたちそれぞれの疑問が浮かび上がってきた。

子どもたちの感想

- ・昆布が北海道から沖縄へ行き、中国へ輸出することがわかりました。しかし、なぜ中国に輸出したのか、どのようにして運んだのか、誰が運んだのか疑問に思いました。何でほかの国に輸出しないのかも知りたいです。僕の予想ですが、もしかしたら中国の方が高く売れるからなんだと思います。（K.K）
- ・昆布は北海道から中国へと行っていることがわかりました。中国に昆布を売るのは、中国だと高く売れるからだと思います。なぜなら中国ではあまり昆布など見たことがないからです。中国では昆布はどんな料理に使われていて、料理以外に昆布は使われているのかが知りたいです。（K.M）
- ・昆布は北海道から薩摩藩を通して琉球へ送られたことがわかりました。富山、福井、金沢などの消費量が多い理由もわかりました。でもどうやってそんなに運んでいるのか、誰が運んだのか、昆布がどれくらいで売れるのか知りたいです。（S.S）
- ・昆布は外国からの輸入ではなく、北海道から来ていて、中国へ輸出していたことがわかりました。昆布は消費量が多いところを経由して沖縄に運ばれていました。経由地だから消費量が多くなっていると思います。北海道から昆布をどのような人がどのような方法で運んでいたか知りたいです。北海道から中国に輸出しているのに、なぜ沖縄まで運んだのかも知りたいです。（M.M）

以前昆布ロードについて学習したときとは違いが顕著になってきた。昆布が中国でどのように使われたのかといったように、中国との関係に注目している子どもが多い。この点は以前の実践ではあがってこない疑問であったので大変興味深い。例えばK.Kは昆布が中国では高く売れるのではないかと予想しているが、話を聞いてみると、これまでの生活体験から来る予想であった。夏休みなどに定期的に中国に戻る際に、体験したことなのだという。こういった経験はなかなかできないことで、そこから来る予想には重みがあると感じた。K.Mの感想にもそれが表れている。昆布を中国で見

たことがないという体験から疑問をあげている。私自身、昆布は薬として用いられたことしかわかっていないので、この点は詳しく知りたいと思った。

もう一点は北前船に代表されるように昆布の運搬に関しての疑問である。その中で「誰が」という疑問があがっているように、売薬商人についても学習していける。M.Mは、「北海道から中国に輸出しているのに、なぜ沖縄まで運んだのかも知りたい」という疑問をあげているが、幕府との関係、薩摩藩の政策といったものを知っていくことで、考えを深められると感じた。

そして昆布の価値である。子どもたちにとって昆布は正月に食べることと、だしをとるときにしか目にしないもので、この2点さえ家庭によってはその機会がないと考えられる。これは沖縄での昆布の消費が減少していることと同様のことが千葉でも起こっていると言えるのではないだろうか。

### (3) 国立歴史民俗博物館を見学する(9月)



展示室の見学前には、ガイダンスルームで江戸図屏風を使った学習を行った



昆布ロードに関する展示物をじっくり見て、わかったことや疑問点をあげる子どもたち

9月には校外学習で歴博を見学した。第3室の「国際社会の中の日本」「ひとともののがれ」の展示を使って、近世の輸出入品や北前船の模型、東アジアの地図等、これまでの学習が目で見確認できた。上述したように、今回の実践のクラスには、中国に関係する子どもがたくさん在籍した。その中でも、6年生の4月、9月に来日した子どもがいて、日本語を理解できないという状況があった。他にも日本語が不自由な子どもが多くいた。そこで、見学の際にはガイドレシーバーを活用することにした。中国語による説明が聞けるガイドレシーバーを使って見学したことで、「日本語の理解」という壁を越えて、昆布ロードに関する理解が進んだと感じた。



**日本語の理解が十分でない子どもは、中国語によるガイドレシーバーで学習を進めた**

見学に関して、今回は第3室に絞って見学することにした。校外学習というと、とにかくすべての展示室を網羅しようとしがちであるが、広さからいっても無理がある。昆布ロードに関する資料を第3室から見つけ、わかったことや疑問に思うことをあげさせていった。見学場所を絞り、見たり探したりする観点を明確にし、子どもにじっくりと展示物を見る時間を確保していくことが、博学連携として大切だと考えている。

歴博見学以降にあがってきた疑問

- ・なぜ中国の人達は昆布を輸入して薬種は書籍を輸出したのかな。(D.K)
- ・なぜ沖縄から輸出したのか知りたい。北海道からそのまま中国へ運べばいいのと思う。(M.K)
- ・昆布をわざわざ中国へ送って、中国はその昆布を使って何をするのか。(K.M)
- ・昆布を輸出するとき、誰がどうやったのか知りたい。おいしい昆布はどういうものか見たい。(K.R)
- ・船で昆布以外にどんなものを運んでいたのか。(H.K)
- ・船を使って運ぶので、船の費用、人件費などのお金をまかなえるのか。半年かかってまでするほどもうかるのか。(S.S)
- ・昆布にはなぜ白い粉のようなものが付いているのか。昆布は干されているのに、食べるときはなぜそうでないのか知りたい。(T.S)

子どもたちの疑問は、大きく分けて昆布そのものについて、中国との関係、北前船についてである。概要を学習した際にもった疑問が、より具体的な疑問になってきている。実物の資料は学習のイメージを膨らませ、もっと学習したいという意欲にもつながった。例えばM.Kは昆布ロードの地図を見て、なぜ直接運ばないのか、という疑問をこれ以降ずっともっていた。幕府との関係という点を考えれば理解できることではあるが、以前の実践でもこの点は難しいと感じた一つである。S.Sもこれ以降一貫して費用について考えを深めていった。この学年は、以前から学校のバザーで切り絵を売ったり、凧を売ったりして「もうけ」について考えて

きた。商売にはお金がかかり、なかなかもうけを出すことは難しいことを体験してきていたからこそ、この疑問について考えていけたと感じる。一人一人が考えを書いていく中で、資料や歴博見学からの理解に大きく差があることもわかってきたので、もう一度資料を整理しながら読み取っていくことにした。

#### (4) 関心があることを整理する (10月)

行事等の関係で、学習が中断したので、歴博見学後の子どもたちの疑問をクラスに広げながら、自分の関心のあることを整理した。

##### 昆布についての関心

- ・私は昆布に興味があります。私は昆布で何かの料理を作りたいです。前に調べたときに、おいしそうなお料理がたくさんあったので食べたいです。一番したいことは、昆布を北海道に行ってとることです。まだ昆布のことを知らなすぎるので、知りたいです。本当に昆布はおいしいのか、昆布を（中国は）輸入して何をするのか知りたいです。(I.K)
- ・ぼくは昆布に興味があります。昆布の種類が特に知りたいです。理由は昆布の名前は聞いたこともないし、種類があるのかも知らないからです。また、おいしい昆布を食べてみたいです。(K.O)
- ・私は昆布に興味があります。歴博に行ったときに大きな昆布があって、それだけの昆布を作ったり、料理に使ったりすることで、どんな良いことあがるのか知りたいです。昆布を食べることによって健康にどんな影響があるのかも知りたいです。(Y.A)

##### 中国との関係についての関心

- ・私は今、中国との関係について知りたいです。その中でも、中国では昆布は何に使っているか知りたいです。昆布は食べていると思います。それと、熱などの風邪をひいたときに薬として食べていたのではないかと思います。中国の人に翻訳してもらいながら聞きたいです。(K.N)
- ・私は今、中国との関係に一番興味があります。昆布をわざわざ中国に送って、中国はその昆布で何をするのか知りたいです。中国人が昆布を使ってどんなことをするのかちょっと見てみたいです。そして、中国ではどんな風に昆布が広がったのかも知りたいと思いました。(K.M)
- ・中国と日本はどのような関係だったのか知りたいです。昆布を中国に輸出して、たくさん輸入している中国は、昆布を他国に運んでいるのか疑問に思いました。日本はなぜたくさん昆布を輸出できるのか知りたいです。(H.K)

### 北前船についての関心

- ・私は北前船についてもっと知りたい。北前船で昆布を運んでいるのはわかっているけれど、他に何を運んでいるのか知りたい。食べ物だけではなく何か道具などものもの運んでいると思うので知りたい。また船にはどんな人が乗っていて、どのくらいの費用がかかったのかも知りたい。船がどんな構造になっているのかも知りたい。(I. K)
- ・北前船について興味があります。特に昆布の運び方やなぜ大阪までしか運ばなかったのかが知りたいです。どれにも工夫があると思うので、なぜそのようなことをしたのか詳しく知りたいです。そして大阪まで北前船で運んで、沖縄や中国までは何で運んでいたのか知りたいです。(M. M)
- ・ぼくは北前船に興味があります。理由は、北前船は知っていることが少ないからです。また、北前船のことを調べれば、ぼくの疑問である北海道から直接運ばなかった理由も知れると思うからです。それ以外にも、なぜ日本海側から昆布を運ぶルートに選んだのかも知りたいからです。(M. K)

それぞれの関心が分かれてきていることがわかる。どの疑問にも共通して言えることが、薩摩藩と富山の売薬商人がキーワードになってくるということだ。沖縄を中継地点として貿易を行うことのメリットや、薩摩藩に昆布を運んでくることで得られる権益といったものについて理解していくことで、子どもたちの疑問を解決していくことができると感じた。

### (5) 新聞記事から手紙を書く (12月～1月)

冒頭でも述べたが、朝日新聞 2017年12月6日夕刊の4面に昆布ロードについての記事があった。記事子どもたちと読み進めていきながら、まだ解決していない疑問や、新たに出てきた疑問について手紙にすることにした。

### 子どもたちの手紙

- ・ぼくは、富山を通して、中国の福建省に昆布が行っていることがわかりました。でも、中国は大きいし、中国の他のところにも行っているのではないかと疑問に思いました。他に、昆布は薬として売られていました。でも、昆布は食べ物なのになぜ薬なのか疑問に思いました。最後に、使い方です。沖縄では料理して食べていて、中国ではどのようにしているのか疑問に思いました。・・・後略 (T. Y)
- ・昆布は北海道から富山や沖縄に運ばれ、中国へ輸出していることなどは調べてわかりました。けれど、わからなかったこともありました。この間昆布について書いてあった記事を読んだときに、沖縄は最近共働きが増え、手間のかかる昆布料理は敬遠されていたと書いてありました。さらに消費量が減っている時期と長寿県から転落した時期が重なっているとも書かれていました。この記事を読んで、私は沖縄の長寿と昆布は何か直接関係があるのか疑問に思いました。(M. M)



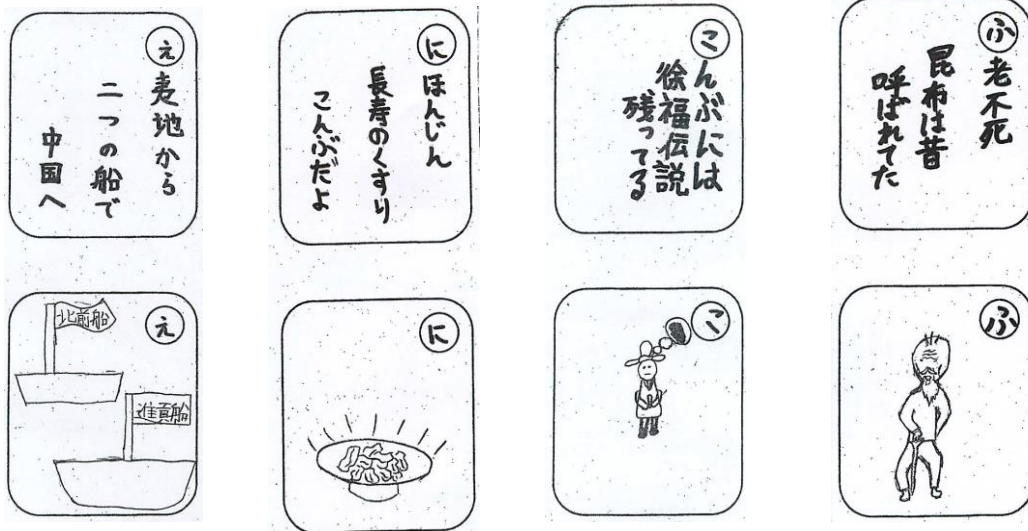
手紙の内容から、理解が深まっていることがわかる。T. Yは昆布が福建省にたどり着いたことまで理解し、その後どこまで行っているのか疑問にあげている。他の子どもたちの疑問にも昆布ロードでは、中国の福建省に到着した後の昆布のゆくえについてあがってきていた。「中国」というひとくくりではなく、中国の中でどうなったのかという疑問は彼だからこそ、このクラスだからこそもてた疑問だと感じる。M. Mは当初流通に関しての疑問をもっていたが、その点については自分なりに理解できたと感じ、昆布と長寿の関係へ関心に移っている。他にも今の沖縄の人が昆布をどう考えているかなど、食生活の変化と現在の沖縄の人々の考えへのまなざしが見られた。これらについて考えていくことで、子どもたちの考えが広がったり、深まったりしていくと感じた。

宛先については、内容ごとに①沖縄県の観光課②歴博の研究者③富山の宮崎一郎さんに送ることにした。③の宮崎さんについては、以前昆布ロードの学習を行ったときに出会った方で、富山で昆布のことについて研究している方である。以前の実践でも質問に答えてもらったり、資料を送ってもらったりした。手紙を書いたことで疑問点が整理され、理解が足りない点、間違っている点などがはっきりしてきた。これらを学習に取り入れていくことで、さらに学習を深めていけると感じた。また、回答は歴博と宮崎さんからもらうことができた。ここでのねらいとして、外部との交流をもっていくこともあげられる。自分たちだけでは解決できないことを、専門家から話を聞く（回答をもらう）ことで、子どもたちの関心は高く保たれる。長い期間学習を続けるうえで、関心をもち続けるということはなかなか難しいが、こういった外部からの刺激はとても効果的である。

#### (6) かるたづくりをする(2~3月)

これまでの学習や、手紙の回答などからかるたづくりをした。毎回の実践でかるたづくりをしているが、かるたの良さは、17文字で自分の興味・関心を端的に表すことができ、そこから一人一人の興味・関心を読み取れることである。この1年間、子どもたちは総合的な学習だけでなく、社会の学習では歴史の単元が終わるごとに、算数でも単元によってはかるたをつくり、学習したことの振り返りとして活用してきた。子どもたちはかるたづくりに慣れており、活動もスムーズに行った。クラスには、上述したように外国につながる子どもが多く、日本語が不自由な子どもが6人ほどいたが、何度も繰り返すことで、取り組むことができるようになった。長い文章を書くことはできなくても、短くまとめるのはストレスも少なそうだった。子どもたちそれぞれのこれまでの学習が表れたものができた。

- ・商人の 知恵が働く 貿易だ (K. O)
- ・琉球へ 静かにこっそり 密貿易 (O. I)
- ・蝦夷地から 二つの船で 中国へ (M. M)
- ・日本人 長寿の薬 昆布だよ (T. A)
- ・不老不死 昆布は昔 呼ばれてた (K. M)
- ・昆布には 徐福伝説 残ってる (T. S)



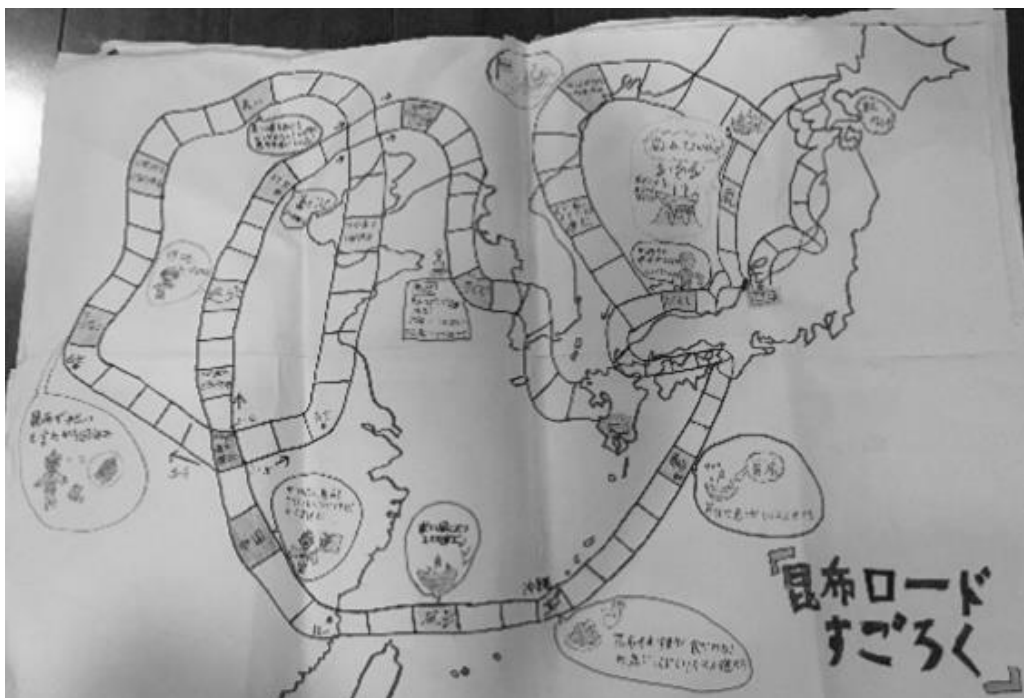
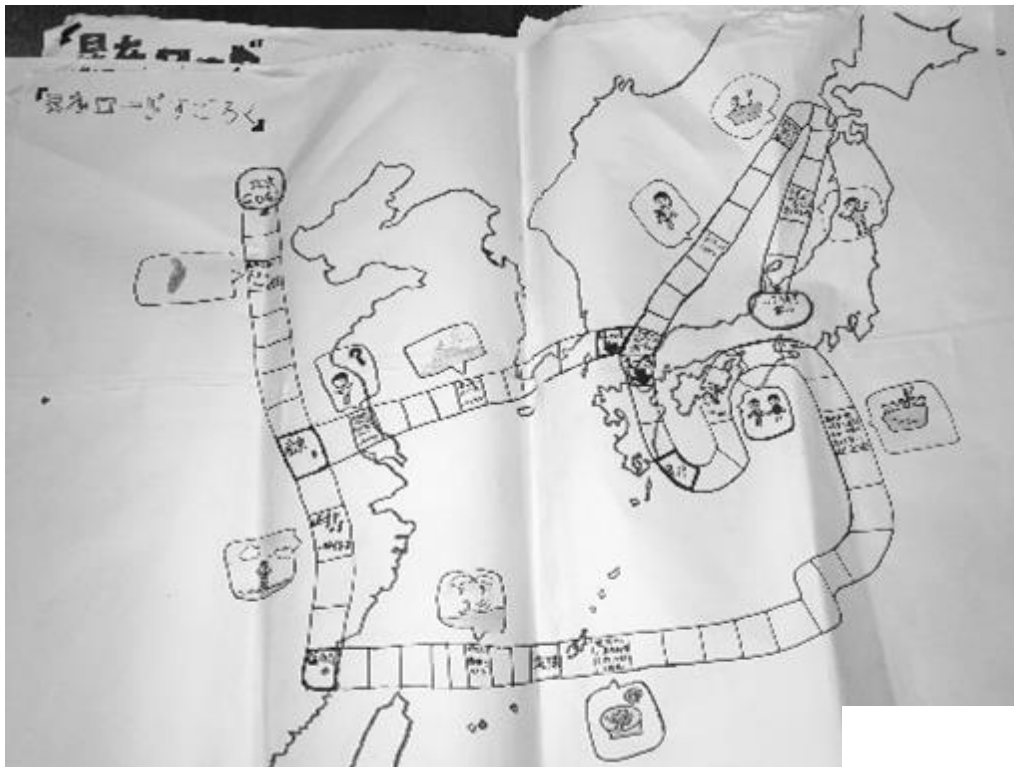
以前の実践では出なかったような内容のものも多くあった。

K. Oは一貫して薩摩藩、売薬商人に関心をもって学習を進めていた。大河ドラマで調所広郷が出てきたことを報告してくるなど、学習以外で知ったことも生かしていた。O. Iは密貿易という言葉に関心を深めていた。すごろくづくりをしたときに「幕府に見つかる」などのキーワードを提案するなど、薩摩藩の政策に関してかるたにできた。M. Mは手紙を書いたときにも述べていた流通に関してかるたにした。現在の沖縄と長寿の関係については、本人の中で納得のいく考えはまとまらなかった。だからこのかるたになったと考えられる。他にもいくつかかるたを作っているが、長寿との関係のかるたは無かった。T. Aのかるたは自分が中国人であるという意識がはっきりとしたものであると感じる。T. Aは6年生の4月に来日した子どもで、はじめは日本語が少しも話すことができなかった。それが1年を経たずして日本語を話し、書くことができるようになった。子どもの力はすごいと感じるとともに、とても大きなストレスもあっただろうとも思う。

### (7) すごろくづくりをする (2~3月)

「昆布ロード」を学習して、昆布ロードはどのような「道」だったのか。グループですごろくづくりをすることにした。スタートは売薬商人の富山とすることだけ決め、そのほかはゴールの位置などグループごとに設定することにした。ゴールをどこに設

定するかでも、子どもたちの関心は表れてくるのではないかという考えもあった。ほとんどのグループのゴールが北京だったことに驚きを覚えた。今回の学習で昆布は最終的に北京まで行くことがわかったのだが、学習していく中で子どもたちの疑問は、多くの場合、中国に関することだった。以前の実践で同じことを行っていたら、そのとき子どもたちの疑問からすると、おそらく薩摩藩か富山がゴールになっていたように感じる。昆布ロードを学習しているが、薩摩藩の政策や富山の売薬商人に焦点が当たっていたからだ。その点でも今回の実践で、彼らだったからこそ、このすごろくになったということがよくわかる。



グループで話し合いながらこれまでの学習を取り入れたものができる

## 5. 成果と課題

### (1) 成果

- ・子どもたちの学習が、クラスだけに収まっていないということがあげられる。歴博の見学、手紙を送るといった活動を行ったが、さまざまな人と関わって学習を進めたいというように、学習の幅が広がっているということが成果だと考える。特に、歴博の見学は、史資料から読み取ったイメージをふくらませることに大きな役割を果たした。実物や模型、屏風など、実際に見ることでさらに想像を膨らませることができた。
- ・以前にも取り組んだ内容の実践ではあるが、子どもたちの違いでここまで関心に違いがあることに驚いた。このクラスは過半数が外国につながる児童である。毎回の感想では、かなりの割合で中国での昆布の扱いについての疑問があげられていた。これを中心に進めていくことで以前の実践とは違ったまとめができたと感じる。
- ・「昆布ロード」がもつ教材としての魅力は、2回目の実践を行っても子どもたちが一生懸命取り組んだことから再確認できた。歴博には、今回見学した展示物以外にも昆布ロードについて考えることができるものがある。どのような子どもたちでも、切り口を変えながら取り組んでいくことができると考える。

### (2) 課題

- ・歴史を学習していくと、史資料中心の学習になってしまい、資料を読み込むことの難しさを感じた。校外学習の活用や手紙の作成、かるたづくり、すごろくづくりも行い、家庭科で「クープイリチー（昆布と豚肉の炒め煮）」の調理実習も行った。様々な方法を取り入れていくことで、なるべく資料以外にも触れられるよう取り組んだが、消化不良は否めない。
- ・現在の沖縄が抱える問題については、深く取り上げることができなかった。子どもたちの中に疑問はあったが、取り上げ方が難しかった。沖縄の人たちとの交流がもてなかったことも課題としてあげられる。展示室の見学を第3室に絞ったが、現代の沖縄に関係する展示物の見学を行うことで、より視野が広がったと考えられる。見学の時間も含め、再考していきたい。

# あひさ 2017年

明治

大正

昭和

平成

## 1980年(昭和55年) 昆布消費量 那覇が日本一



那覇市をふんだんに使った沖縄の伝統料理「あひさ」の昆布巻。材料は1987年の昆布巻。①約300グラム、北後津市。②1987年、北後津市。

那覇市の飲食店「あひさ」が、1980年(昭和55年)の昆布消費量が日本一を記録した。これは、1980年の調査で、那覇市の昆布消費量は、1979年の調査より、約10%増加した。これは、那覇市の人口が増加したためと見られる。また、那覇市の昆布消費量は、1979年の調査より、約10%増加した。これは、那覇市の人口が増加したためと見られる。

## 琉球通じた交易 維新の力に



日本近世史・近代史が専門の 高橋 健二氏

1868年に始まった、幕府の倒壊と明治維新の始まり。この間、琉球は、薩長藩閥の勢力が拡大し、琉球を併呑する動きがあった。この間、琉球は、薩長藩閥の勢力が拡大し、琉球を併呑する動きがあった。この間、琉球は、薩長藩閥の勢力が拡大し、琉球を併呑する動きがあった。



那覇市をふんだんに使った沖縄の伝統料理「あひさ」の昆布巻。材料は1987年の昆布巻。①約300グラム、北後津市。②1987年、北後津市。

琉球は、薩長藩閥の勢力が拡大し、琉球を併呑する動きがあった。この間、琉球は、薩長藩閥の勢力が拡大し、琉球を併呑する動きがあった。この間、琉球は、薩長藩閥の勢力が拡大し、琉球を併呑する動きがあった。

## 薩摩藩と菜売り 食文化の源流

薩摩藩の菜売りが、食文化の源流となった。これは、薩摩藩の菜売りが、食文化の源流となった。これは、薩摩藩の菜売りが、食文化の源流となった。これは、薩摩藩の菜売りが、食文化の源流となった。

この量は約60%と推定され、1万戸以上が、薩摩藩の菜売りを食文化の源流とした。